月　日 名前

／100点

【小3】国語 文章問題　説明文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

晴れた日、ベランダにほしたせんたくものは、夕方にはすっかりかわいています。ぬれていた水は、いったいどこへ行ったのでしょうか。

水は、目に見えないほど小さなつぶになって、空気の中へとんでいきます。これを、「じょう発」といいます。せんたくものがかわくのは、ぬのの中の水が、少しずつじょう発していくからです。

じょう発は、あたたかいほど、はやく進みます。日なたにほしたせんたくものが、日かげにほしたものよりはやくかわくのは、そのためです。

風も、かわかすのを手つだいます。ぬのの近くの空気には、じょう発した水がたまっていきます。風がふくと、その空気が運ばれて、かわいた空気と入れかわります。だから、風のある日はよくかわくのです。

ほし方にも、くふうができます。二つにおりたたんでほすより、広げてほしたほうが、はやくかわきます。空気にふれるところが広くなるからです。

おうちの人がせんたくものをほすとき、どこに、どうやってほしているか、見てみましょう。そこには、日の光と風をうまく使うちえが、かくれているかもしれません。

（この問題のための書き下ろし）

問一　水が、目に見えないほど小さなつぶになって、空気の中へとんでいくことを、何といいますか。本文から五字までで書きぬきましょう。

問二　日なたにほしたせんたくものが、はやくかわくのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　日なたは、いつも風が強いから。

イ　あたたかいほど、じょう発がはやく進むから。

ウ　日なたは、空気が少ないから。

問三　風のある日に、せんたくものがよくかわくのはなぜですか。「空気」という言葉を使って、三十五字までで書きましょう。

問四　広げてほしたほうが、はやくかわくのはなぜですか。「～から」につづくように、本文から二十字までで書きぬきましょう。